

7. 貨幣(3)

貨幣の機能への補足:その1

今回のキーワード

- ⊕ 手形
- ⊕ 不渡り
- ⊕ M1
- ⊕ 預金通貨
- ⊕ インフレ・デフレ

今回の課題

- ✓ 企業間取引において用いられている手形の便利さと危険性とを明らかにする。
- ✓ 金融政策のターゲットになる通貨とはどういうものか、その量を変化させると何が起きるのかを明らかにする。

今回の目次

- ▶ 手形
- ▶ 通貨
- ▶ インフレ・デフレ

手形

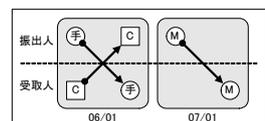
= 信用売買において信用が表現される譲渡可能な債務証書

- 信用売買 ⇔ 金銭貸借
- 証書 ⇔ 口約束
- 譲渡可能性 ⇔ 単なる債務証書

約束手形と為替手形

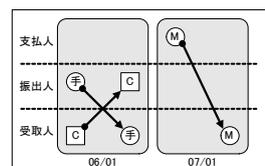
1. 約束手形

- = 支払約束証
- 振出人が支払を約束



2. 為替手形

- = 支払指図証
- 振出人が支払人に支払を指図



手形の流通

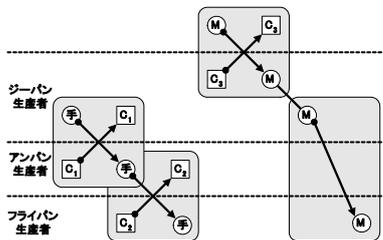
- 手形は流通する
 - 紙に書かれているから
- 裏書
 - 手形の裏面にサインすること
 - 手形を流通させる基本的なテクニック

手形と銀行

- 手形は銀行制度をつうじて利用されている
- 当座預金口座をつうじて決済
 - 統一手形用紙
 - 小切手
 - ＝預金者が振出人、銀行が支払人であるような為替手形
 - 手形割引
 - 手形を満期前に現金化する基本的なテクニック

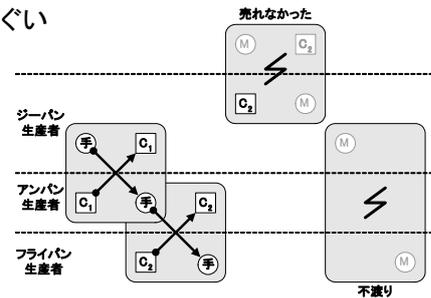
手形は便利

- 現金がなくても取引が進む
- 社会的に現金を節約する



手形は危険

- 不渡り・遡及義務・パクリ
- 他人の尻ぬぐい
 - 連鎖倒産
 - 黒字倒産
- 対策
 - キャッシュフロー経営
 - 手形の現金化

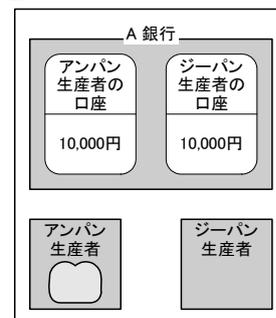


通貨

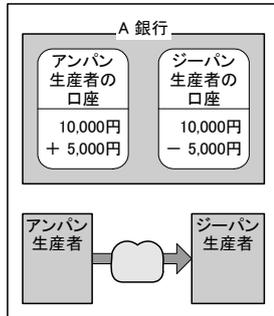
- $M1 = \text{現金通貨} + \text{預金通貨}$
- 現金通貨は“札”と“玉”
- 預金通貨は、市中銀行にある要求払預金のこと
 1. 当座預金
 2. 普通預金

預金通貨: 取引前

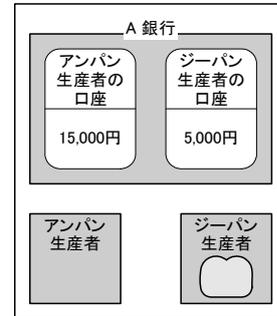
ジーパン生産者がアンパン生産者から5,000円分のアンパンを買うと...



預金通貨：途中経過



預金通貨：取引後

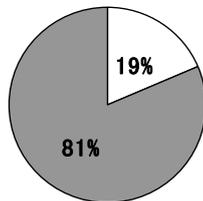


現金通貨と預金通貨

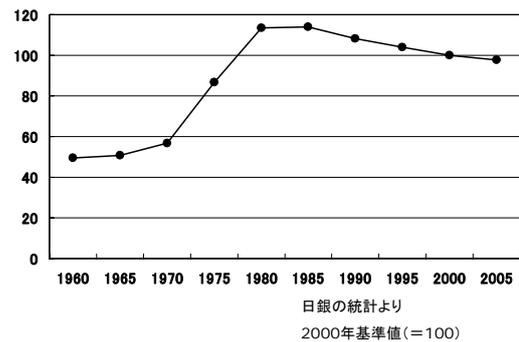
- 実際には、通貨の大部分は預金通貨
- 企業間の大口取引では預金通貨が使われる

□ 現金通貨
■ 預金通貨

M1: 389兆円のうち、
現金通貨は72兆円、
預金通貨は316兆円
(日銀発表: 2007年3月時点)



国内企業物価指数の変遷



流通に必要な貨幣の数量

$$m = \frac{\sum_i p_i q_i}{v}$$

- m は流通手段としての貨幣
- p は商品の価格(単価)
- q は商品の販売量
- v は貨幣の流通速度

インフレと紙幣発行

- 紙幣を増発すると、インフレーション
- ただし、どのていどインフレーションになるかは、事情しだい
 - 有効需要の問題
 - 預金通貨の問題

$$m = \frac{P \cdot Q}{v}$$

貨幣制度

- 兌換制と不換制
 - 兌換制
 - =紙幣と金との交換に応じる
 - 不換制
 - =紙幣と金との交換に応じない
- 金本位制と管理通貨制
 - 金本位制
 - =金準備によって通貨供給量が制約される
 - 管理通貨制
 - =政策的に通貨供給量を増減させる
- 現在の貨幣制度は不換制かつ管理通貨制

貨幣制度(2)

- 兌換制には金本位制が対応
- 不換制には管理通貨制が対応
- 兌換制のもとでは、持続的なインフレーションはおきない